東京都立多摩総合医療センター麻酔科専門研修プログラム

（東京都立多摩総合医療センター施設群　東京医師アカデミー麻酔科専門研修プログラム）

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムは「東京医師アカデミー」の麻酔科コースの一部門である．東京医師アカデミーとは，都立病院が一体となって提供する後期臨床研修システムのことであり，各病院の特色を生かし，臨床を重視した質の高い医師の育成を行う．都立病院の総病床数は7,200床であり，このスケールメリットを最大限に活用できるように病院間連携を行って研修を行う．

専門研修基幹施設である東京都立多摩総合医療センター*，専門研修連携施設Aの東京医科歯科大学医学部附属病院，東京都立小児総合医療センター，国立成育医療研究センター*，慶應義塾大学病院，専門研修連携施設Bのがん・感染症センター都立駒込病院，東京都立広尾病院，東京都立大塚病院*，東京都立墨東病院*，東京都立神経病院，東京都立荏原病院*，東京都立豊島病院*，東京都立東部地域病院*，東京都立大久保病院*，東京都立多摩北部医療センター*，東京都立多摩南部地域病院*等の都立病院の他に聖路加国際病院*，東京ベイ・浦安市川医療センター，埼玉医科大学病院，埼玉医科大学国際医療センター*，埼玉医科大学総合医療センター*に，TMGあさか医療セン

ター，武蔵野赤十字病院，埼玉石心会病院，国立循環器病研究センター，柏厚生総合病院においても研修が可能である．

*:地域医療支援病院

本専門研修プログラムは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する．麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている．

本研修プログラムでは，地域医療に特化した連携施設での研修を特徴とし，研修終了後は，選考とポストの空き状況により東京都の地域医療の担い手として都立病院への就職の道が開かれている．

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の１年目は，多摩総合医療センターで全外科領域の麻酔研修（一般麻酔研修，心臓麻酔研修，産科麻酔研修）をおこなう．
- ２年目は，小児麻酔研修を小児総合医療センターで研修を行う．
- 原則３年目以降他部門（神経麻酔，ペインクリニック，緩和医療，救命救急，集中治療など）の研修を行う．１年間は埼玉医科大学病院（ペインクリニック），埼玉医科大学国際医療センター（心臓血管麻酔，集中治療），埼玉医科大学総合医療センター（産科麻酔，ペインクリニック，集中治療），TMG あさか医療センター（末梢神経ブロック）のいずれかの施設（複数選択可）で研修を行う．神経麻酔は神経病院，緩和医療は駒込病院または豊島病院，ペインクリニックは荏原病院，救命救急は多摩総合医療センターまたは墨東病院で研修できる．集中治療は東京医科歯科大学医学部付属病院，聖路加国際病院または東京ベイ・浦安市川医療センターで研修できる．小児麻酔は都立小児総合医療センターの他に国立成育医療研究センターで研修ができる．
- 地域医療の維持のため，原則３ないし４年目に東京都立多摩北部医療センター，東京都立多摩南部地域病院等の地域医療支援病院で研修を行う．当プログラムにはその他に東京都立大塚病院，東京都立墨東病院，東京都立荏原病院，東京都立豊島病院，東京都立東部地域病院，東京都立大久保病院，国立成育医療研究センター，聖路加国際病院，埼玉医科大学国際医療センター，埼玉医科大学総合医療センターといった多くの地域医療支援病院と連携している．
- ３年目，４年目の院外研修は本人の希望やサブスペシャリティーを考慮してローテーションを構築する．

研修実施計画例

年間ローテーション表

	1年目	2年目	３年目	４年目
A	多摩総合医療センター	多摩総合医療センター，小児総合医療センター	埼玉県の連携施設	多摩総合医療センター，多摩北部医療センター，連携施設
B	多摩総合医療センター	多摩総合医療センター，小児総合医療センター	埼玉県の連携施設	多摩総合医療センター，多摩南部地域病院，連携施設

週間予定表

東京都立多摩総合医療センターの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	明け	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	手術室	明け	手術室	休み	休み
当直			当直				

4. 研修施設の指導体制

①　専門研修基幹施設

都立多摩総合医療センター（以下，多摩総合医療センター）

研修実施責任者：山本　博俊

専門研修指導医：山本　博俊（麻酔，心臓血管麻酔）
阿部　修治（麻酔，ペインクリニック）
田辺　瀬良美（麻酔，産科麻酔）
渡邉　弘道（麻酔，神経ブロック）
松原　珠美（麻酔）
三井　裕介（麻酔）
本田　亜季（麻酔）
稲吉　梨絵（麻酔）
滝島　千尋（麻酔，ペインクリニック）
小松　郁子（麻酔，神経ブロック，心臓血管麻酔）

専門医：北條　貴也（麻酔）
江村　彩（麻酔）

土屋　愛依（麻酔）

認定施設番号：89
特徴：当院は都立府中病院から全面改築移転し，都立小児総合医療センターが同じ建物して開設され，両院合わせて1,350床の病院群として出発した．救命センターを含む東京ER・多摩（総合）を開設し，小児総合医療センターが担う東京ER・多摩（小児）と連携しながら，新生児から高齢者まであらゆる救急疾患に対応できる体制を取っている．また多摩地域における唯一の総合的な医療機能を持つ都立病院として，11の重点医療を定めて高度専門医療を実施している．その中でも救急医療，がん医療，周産期医療を三本柱として重視している．

当院麻酔科の業務内容は定時手術麻酔管理，手術室運営，外来・病棟におけるペインクリニック診療，ERおよび救命救急センターからの緊急手術の対応である．上記の当院の特徴から多数の外科系診療科がまんべんなくそろっており，それぞれ活発に手術を行っていることから症例は豊富でバラエティに富んでいる．緊急手術特に産科の緊急手術が多いのが当院の特徴である．麻酔科専門医がシニアレジデントの教育をマン・ツー・マンで行っている（麻酔科標榜医取得まで）．

また当院では臨床研修の充実に取り組んでおり，カンファレンスや講演会は頻繁に開かれている．図書室にはClinicalkey，ScienceDirect，UpToDateをはじめとしてonlineで読める雑誌や書籍が豊富にあり，自学自習する環境が整っている．

②　専門研修連携施設A

東京医科歯科大学病院
研修プログラム統括責任者：内田篤治郎
専門研修指導医：内田篤治郎（麻酔）
遠山悟史　（麻酔、小児麻酔、産科麻酔）
大畑めぐみ（麻酔、ペインクリニック）
山本寛人　（麻酔、区域麻酔）
仙頭佳起　（麻酔、集中治療）
塚田さよみ（麻酔）
岩野雄一　（麻酔）
大森敬文　（麻酔）
山本雄大　（麻酔、心臓手術麻酔、小児麻酔）
鈴木邦夫　（麻酔）
竹本彩　　（麻酔、小児麻酔、産科麻酔）

鈴木真弓　（麻酔、心臓手術麻酔）
北條亜樹子（麻酔、区域麻酔）
鳥居愛美　（麻酔）
金森眸　　（麻酔）
徐米多　　（麻酔）
勝山浩延　（麻酔）
今村祥子　（麻酔）
丸山史　　（集中治療）
増田孝広　（集中治療）

特徴：様々な分野に精通する指導医たちの下、大学病院ならではの幅広い症例が経験できる。ICUのローテーションも可能。

東京都立小児総合医療センター（以下、小児総合医療センター）

研修実施責任者：西部　伸一

専門研修指導医：西部　伸一　　（小児麻酔）
山本　信一　　（小児麻酔）
北村　英恵　　（小児麻酔）
簑島　梨恵　　（小児麻酔）
伊藤　紘子　　（小児麻酔）
箱根　雅子　　（小児麻酔）
佐藤　慎　　（小児麻酔）

認定病院番号：1468

特徴：地域における小児医療の中心施設であり、治療が困難な高度専門医療、救命救急医療、こころの診療を提供している。年間麻酔管理件数が 4000 件と症例数が豊富で、一般的な小児麻酔のトレーニングに加え、新生児麻酔、心臓麻酔、気管形成術の麻酔などの研修が行える。また、積極的に区域麻酔を実施しており、超音波エコーガイド下神経ブロックを指導する体制も整っている。2019 年度より心臓血管麻酔専門医認定施設となっている。

国立成育医療研究センター

研修実施責任者：糟谷　周吾

専門研修指導医：糟谷　周吾（小児麻酔）

大原　玲子（産科麻酔）
馬場　千晶（小児麻酔）
蜷川　純（小児麻酔）
山下　陽子（産科麻酔）
古田　真知子（小児麻酔）
松永　渉（産科麻酔）
浦中　誠（小児麻酔）
橋谷　舞（小児麻酔）
阿部　真友子（産科麻酔）
伊集院　亜梨紗（産科麻酔）
阿部　まり子（小児麻酔）
壷井　薫（小児麻酔）
永田　沙也（小児麻酔）
久米　澄子（産科麻酔）
河村　彰久（小児麻酔）

認定病院番号：87
特徴：
・国内最大の小児・周産期施設であり、胎児、新生児、小児、産科麻酔（無痛分娩管理を含む）の周術期管理を習得できる。
・国内最大の小児集中治療施設を有し、小児救急疾患・重症疾患の麻酔・集中治療管理を習得できる。
・小児の肝臓移植、腎移植、小腸移植、心臓移植の周術期管理を習得できる。
・小児がんセンター、緩和ケア科があり、小児緩和医療を経験できる。
・臨床研究センターによる臨床研究サポート体制があり研究環境が整っている。
麻酔科管理症例　6245症例

慶應義塾大学病院

研修プログラム統括責任者：森﨑　浩
専門研修指導医：

森﨑　浩(麻酔、集中治療)
小杉　志都子（麻酔、ペインクリニック）
三笠　裕美　（麻酔）
山田　高成　（麻酔）
長田　大雅　（麻酔、集中治療）
加藤　純悟　（麻酔、心臓麻酔）
御園生　与志（麻酔）
五十嵐　達　（麻酔、区域麻酔）
大橋　夕樹　（麻酔、産科麻酔）
壽原　朋宏　（麻酔、集中治療）
増田　祐也　（麻酔、区域麻酔）
若泉　謙太　（麻酔、ペインクリニック）

伊原　奈帆　（麻酔、緩和医療）
阪本　浩平　（麻酔）
寅丸　智子　（麻酔）
細井　卓司　（麻酔）
星野　麗子　（麻酔、ペインクリニック）
若宮　里恵　（麻酔、小児麻酔）
鈴木　悠太　（麻酔、集中治療）

専門医：
生駒　祐介　（麻酔、集中治療）
戸谷　遼　（麻酔、心臓麻酔）
高岡　早紀　（麻酔、ペインクリニック）
青木　真理子（麻酔）
小山　祐果　（麻酔、小児麻酔）
関谷　由希　（麻酔）
山谷　直大　（麻酔）

麻酔科認定病院番号　：　3

特徴：経皮的心臓弁膜症手術や臓器移植を含む様々な先進的手術あるいは種々の合併症を有する患者手術等、麻酔管理の質が問われる症例が数多くあり、同時に必要経験症例数を遙かに上回る各診療科の手術麻酔が経験出来ます。手術麻酔に加えて、集中治療、ペインクリニック、緩和医療や無痛分娩など幅広く研修の機会を提供しています。学会発表や論文執筆はもとより、研修プログラム終了後の進路を見据えた環境を整えています。

2022年度麻酔科管理症例：9187例

特殊な経験必須症例 （2022年度）	年間施設症例数
小児（6歳未満）の麻酔	391症例
帝王切開術の麻酔	294症例
心臓血管外科の麻酔 （腹部大動脈手術を含む）	578症例
胸部外科手術の麻酔	519症例
脳神経外科手術の麻酔	208症例

③　専門研修連携施設B

東京都立駒込病院（以下，駒込病院）

研修プログラム統括責任者：佐藤　洋
専門研修指導医：佐藤　洋　　（麻酔、ペインクリニック）
鈴木　尚生子（麻酔、ペインクリニック）
佐藤　和恵　（麻酔）
霜鳥　久　　（麻酔）
田島　明子　（麻酔、ペインクリニック）
篠浦　央　　（麻酔）
北澤　みずほ（麻酔）
専門医：
麻酔科認定病院番号：146
特徴：

当院はがん専門病院であるため、がん患者の手術における術前評価および術中術後管理が研修の中心となる。外科系各科の高度専門手術に対して安全な麻酔管理を提供できる能力を育成する。ロボット支援手術（ダヴィンチ手術）を含めた内視鏡下手術、数科にまたがるコラボ再建手術などが多いのも特徴である。当院に診療科のない心臓血管外科、産科、小児外科などの麻酔管理は専門研修連携施設での研修を加えることで、専門医に必要な知識と経験を確実に得られるようにしている。また麻酔科の別側面であるペインクリニック研修や、他科研修（緩和ケア診療・救急診療）などを行える環境を整えている。

通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・くも膜下脊髄麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の特殊麻酔を担当医として経験する。

・胸部外科手術の麻酔　呼吸器外科（胸腔鏡下）手術、食道外科手術（含むロボット支援手術）など
・脳神経外科手術の麻酔　覚醒下脳腫瘍摘出術など
・整形外科の麻酔　脊髄腫瘍、脊椎腫瘍（神経モニタリング）の麻酔など
・泌尿器科の麻酔　ミニマム創内視鏡手術、ロボット支援手術（ダヴィンチ手術）
・胃外科・大腸外科・肝胆膵外科・婦人科の麻酔　内視鏡手術、ロボット支援手術（ダヴィンチ手術）など

東京都立広尾病院　（以下，広尾病院）

研修プログラム統括責任者：羽深　鎌一郎

専門研修指導医：羽深　鎌一郎（麻酔，救急医療）
金子　裕子（麻酔，ペインクリニック）
亀田　和夏子（麻酔）
中川　健（麻酔）
専門医：左近　奈央子（麻酔）
寺﨑　美沙子（麻酔）
竹内　かおる（麻酔）
栗沢　航平（麻酔，集中治療）
認定病院番号：213
特徴：救命救急センターを含む「東京ER・広尾」を運営し，地域中核病院である．
救急医療のローテーションが可能である．

東京都立大塚病院（以下，大塚病院）

研修プログラム統括責任者：新井　多佳子
専門研修指導医：新井　多佳子（麻酔、区域麻酔）
小原　崇一郎（麻酔、小児麻酔）
伊藤　祥子（麻酔、区域麻酔）
佐々木　綾（麻酔、区域麻酔）
専門医：　奥田　奈穂（麻酔、区域麻酔）
津久井　亮太（麻酔、区域麻酔）

麻酔科認定病院番号：472
特徴：総合周産期センターを併設しているため、一般的な麻酔管理に加えて産科麻酔や新生児・小児麻酔の十分な経験が可能である．またペインクリニック研修やＩＣＵ研修を行える環境を整えているほか、日本区域麻酔学会認定医も在籍しており、神経ブロックについての専門的な知識と技術を学ぶことができる．なお当院に診療科のない心臓血管外科のほか、小児麻酔についても専門研修連携施設での研修を行い、より専門的な知識と経験を得られるようにしている。

東京都立墨東病院（以下，墨東病院）

研修プログラム統括責任者：　臼田岩男
専門研修指導医：臼田岩男　（麻酔、心臓血管麻酔）
千田麻里子（麻酔、ペインクリニック）
高田朋彦　（麻酔、ペインクリニック）

後藤尚也　（麻酔）
河村尚人　（麻酔、心臓血管麻酔、ペインクリニック）
佐藤千穂子（麻酔、ペインクリニック）
永迫奈己　（麻酔）
平野敦子　（麻酔、ペインクリニック）
桐野若葉　（麻酔）
菊池暢子　（麻酔、ペインクリニック）
柴崎朋　（麻酔）
吉村敦　（麻酔）
専門医：　高橋哲正　（麻酔）

麻酔科認定病院番号　26

特徴：救命救急センターを含む「東京ER・墨東」を運営し、周産期母子医療や精神科救急医療など救急医療のセンター的機能を担う地域中核病院である。
ほぼ全ての診療科に対応しており、偏りのない麻酔管理が経験できる。
緊急手術が多く、救急診療における麻酔管理を学べる。
心臓血管麻酔専門医認定施設である。
ペインクリニック研修が行える。
集中治療科での研修が行える。

東京都立神経病院（以下，神経病院）

研修実施責任者：又吉宏昭

専門研修指導医：又吉宏昭（麻酔，ペインクリニック）
福田志朗（麻酔）
三宅奈苗（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1056

特徴：　当院は脳脊髄機能外科を中心とした手術を行っている。てんかん手術、神経血管減圧術（三叉神経痛、顔面けいれんなど)、聴神経鞘腫、脊髄腫瘍、など脳神経モニタリングを行う手術の麻酔が多いことが特徴である。またペインクリニック研修、集中治療研修も行える環境を整えている。

東京都立荏原病院（以下，荏原病院）

研修プログラム統括責任者：加藤隆文

専門研修指導医：加藤 隆文（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）

小寺 志保（麻酔、ペインクリニック）
中村 繭子（麻酔、ペインクリニック）
中島 愛　（麻酔）
専門医：　吉田 洋介（麻酔）
認定病院番号 792
特徴 ：当院は地域における急性期脳血管疾患医療の中核となっている。脳神経外科の他、11の診療科に対応しており、偏りのない麻酔管理が経験できる。緊急手術も多く、救急診療における麻酔管理を学べる。
また当院では ICU 専従医師を麻酔科が毎日担っており、症例は限られるが集中治療管理を学べる。
小児外科、心臓血管外科、呼吸器外科などの当院で経験できない麻酔管理は専門研修連携施設で研修を行いより専門的な知識と経験を得られるようにしている。
当院は都内で 4 か所しかない第一種感染症指定医療機関の一つであり、2020 年初頭からCOVID-19 感染症患者を積極的に受け入れてきた。麻酔科は感染症科に協力し重症呼吸不全管理や集中治療管理に積極的にかかわりパンデミック下の地域医療に大きな役割を果たした。
当院は日本ペインクリニック学会の研修指定施設であり、学会専門医をとることが可能である。
また当院は日本緩和医療学会認定研修施設で、麻酔科も緩和ケアチームに参加してお緩和ケアを学べ、緩和医療学会認定医取得も可能である。

麻酔科管理症例数 1,660 症例

東京都立豊島病院（以下，豊島病院）

研修実施責任者：吉岡斉
専門研修指導医：吉岡斉　（麻酔、ペインクリニック）
吉川晶子　（麻酔、ペインクリニック）
小出博司（麻酔）
小川敬　（麻酔）
篠崎正彦（麻酔）
専門医： 佐々木暢夫（麻酔）

麻酔科認定病院番号：899

特徴：都北西部の地域医療を担う施設。救急医療、がん診療に重点をおき独立した緩和ケア病棟を持つ。麻酔科管理の無痛分娩をおこなっており、帝王切開等の産科麻酔症例数も多い。手術麻酔に加えてペインクリニックと緩和医療のローテーションも可能である。当院は日本ペインクリニック学会の研修指定施設であり、学会専門医をとることが可能である。

また、当院は第二種感染症指定医療機関であるため、数多くの新型コロナ感染症患者を受け入れてきた。麻酔科はその重症患者管理に関わるだけでなく、新型コロナ感染症合併患者に緊急手術が必要な場合にも対応してきた。一般病棟の減少により手術総数は減少しているが、地域医療に果たす役割が重要であることに変わりはない。

東京都立東部地域病院（以下，東部地域病院）

研修実施責任者：本山慶昌

専門研修指導医：本山慶昌（麻酔、ペインクリニック）
稲田英一（麻酔）
浦里裕子（麻酔）

麻酔科認定病院番号：659

特徴：当院では、がん治療をはじめとした高度専門医療から、二次救急、まで多岐にわたる豊富な症例を経験できる。さらに他院研修として、小児麻酔専門研修など専門的な知識と経験を得られるようにしている。また、麻酔科の別側面であるペインクリニック研修や、他科研修などを行える環境を整えている。
東部地域病院，関連研修施設の墨東病院、小児総合医療センター，駒込病院、広尾病院、大塚病院、多摩総合医療センター、神経病院、荏原病院、豊島病院、多摩北部医療センター、順天堂大学附属順天堂医院において，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し，十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する。
ペインクリニック研修も行える。

東京都立大久保病院（以下、大久保病院）

研修実施責任者：山縣克之

専門研修指導医：鈴木健雄（麻酔）
芦刈英理（麻酔）
山縣克之（麻酔）
有吉史美子（麻酔）

認定病院番号　701

特徴：

他科との連携がスムーズな中規模病院のメリットを活かした研修が行えます。

当院は特に腎医療に力をいれており、多くの腎不全患者の麻酔を経験できます。なかでも、生体腎移植術は2件/月まで実施できる体制が整えられており、その麻酔管理に携わることも可能です。

大きな手術はそれほど数多くはありませんが、重症合併症患者の麻酔のみならず、カテ室麻酔や口腔外科手術の鎮静などの症例も豊富であるため、様々な経験を積むことができます。

東京都立多摩北部医療センター（以下、多摩北部医療センター）

研修実施責任者：河野麻理

専門研修指導医：河野麻理（麻酔）
竹内稚依（麻酔）
石橋桜子（麻酔、ペインクリニック）
佐々木咲子（麻酔）

認定施設番号：437

特徴：地域医療支援病院である。当院は前身の「多摩老人医療センター」時代から長年にわたって培ってきた高齢者医療の経験があり、平成 17 年に現在の「多摩北部医療センター」となり対象年齢が小児まで拡大してからも、依然として高齢者の症例が数多くある。平成 18 年に地域医療支援病院に認定、さらに東京都指定２次救急医療機関に指定されており、休日、夜間の救急医療にも力を入れている。

大学病院や他の大病院のような難しい症例は少ないが、基本的な症例を数多く経験することができ、場数を踏むことで自分なりの課題や問題点を見出すことができると考えている。

東京都立多摩南部地域病院（以下，多摩南部地域病院）

研修実施責任者：王子盛嘉（麻酔）

専門研修指導医：舘田武志（麻酔）
王子盛嘉（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1531

特徴：地域医療支援病院で消化器外科、整形外科、婦人科、泌尿器科、口腔外科、耳鼻科、脳神経外科症例の麻酔研修が可能。

聖路加国際病院

研修実施責任者：阿部　世紀

日本麻酔科学会指導医・厚生労働省認定臨床研修指導医資格：

阿部　世紀　（麻酔、小児麻酔）

藤田　信子（麻酔、心臓麻酔、産科麻酔、ペインクリニック）

林　督人（麻酔、区域麻酔、産科麻酔、ペインクリニック）

佐久間　麻里（麻酔、救急）

林　怜史　（麻酔、心臓麻酔）

篠田　麻衣子（麻酔、区域麻酔）

早坂　知子（麻酔、区域麻酔）

専門医：

小山　杏奈　（麻酔、ペインクリニック、産科麻酔）

片倉　知美　（麻酔、産科麻酔）

山口　慧太郎　（麻酔）

中張　裕史　（麻酔、心臓麻酔、小児麻酔）

宮坂　清之　（麻酔、小児麻酔、シミュレーション教育）

城本　菜那　（麻酔、心臓麻酔）

井上　真由子　（麻酔、心臓麻酔）

麻酔科認定病院番号：249

当院の手術室は 15 室あり、心臓外科、小児外科、胸部外科、腹部外科、脳神経外科、無痛分娩、また先端医療（TAVI、Mitralclip、Da Vinci 手術（泌尿器、婦人科、心臓外科）など）も含めた、幅広い症例が経験できる。

挿管・硬膜外カテーテル留置・中心静脈カテーテル留置、神経ブロックなど、様々な手技を習得し、合併症のある症例の麻酔も上級医の指導のもと独立して担当できます。心臓血管麻酔・産科麻酔など、将来サブスペシャリティー領域へ進む足がかりとなるトレーニングが受けられる。

東京ベイ・浦安市川医療センター

研修プログラム統括責任者：小野寺　英貴

専門研修指導医：小野寺　英貴（麻酔）

深津　健（麻酔）

日下部　良臣（麻酔）
石橋　智子（麻酔）

・認定施設番号：1612

・特徴：高齢者医療・救急医療・小児医療・周産期医療を診療の重点とし、地域医療に根差した救急拠点病院。

埼玉医科大学病院　（災害拠点病院）

研修実施責任者：三枝 勉(診療部長、准教授)

専門研修指導医：三枝 勉（麻酔、ペインクリニック）
長坂 浩（麻酔、ペインクリニック）
井手 康雄（麻酔、ペインクリニック）
土井 克史（麻酔、ペインクリニック）
岩瀬 良範（麻酔）
前山 昭彦（麻酔）
紫藤 明美（麻酔、ペインクリニック）
尾崎 道郎（麻酔）

専門医：中村 智奈（麻酔、ペインクリニック）
野村 麻子（麻酔）
納谷 一郎太（麻酔）

麻酔科認定病院番号：84

特徴：埼玉医科大学病院の目標は、1.特定機能病院として、先進性があり、高度の技術と安全性に裏付けされた、質の高い医療を提供すること、2.教育病院として医学生や若手医師の教育を担う病院であること、3.地域密着型のどんな病気にでも対応できる総合病院であること、である。豊富な症例数に対して、いかにして上記の目標を達成するかが、専攻医と研修指導医の責務である。多忙な日常が予想されるが、常に適切なワークロードに配慮しながら、心身ともに健全な専門研修プログラムの実践を行いたい。

埼玉医科大学国際医療センター

研修プログラム統括責任者：北村　晶(診療部長、教授)

専門研修指導医：北村　晶　（麻酔、集中治療）
中川　秀之（麻酔、心臓麻酔）
辻田　美紀（麻酔、小児心臓麻酔）

釜田　峰都（麻酔、小児麻酔）
関口　淳裕（麻酔）
能美　隆臣（麻酔）
足立　佳也（麻酔）
鈴木　真純（麻酔）
住井　啓介（麻酔）
内田　賢太郎（麻酔）
千葉　圭彦（麻酔）

認定病院番号： 1316

特徴：小児を含む心臓血管手術・胸部外科手術・脳神経外科手術の豊富な症例数、悪性腫瘍や救急に特化した急性期病院である。

① 麻酔研修指導医の人数：11 名
② 麻酔科管理症例： 6159 症例 （2022/4/1～2023/3/31）
③ 小児（6 歳未満）の麻酔：115
④ 帝王切開の麻酔：0
⑤ 心臓血管手術の麻酔：759
⑥ 胸部外科手術の麻酔：443
⑦ 脳神経外科の麻酔：411

埼玉医科大学総合医療センター

研修実施責任者：小山　薫
専門研修指導医：小山　薫 （麻酔，集中治療）
照井　克生 （麻酔，産科麻酔）
小幡　英章 （麻酔）
鈴木　俊成 （麻酔，区域麻酔）
清水　健次 （麻酔，ペインクリニック）
田村　和美 （麻酔，産科麻酔）
丸尾　俊彦 （ペインクリニック）
山家　陽児 （麻酔，ペインクリニック）
松田　祐典 （麻酔，産科麻酔）
加藤　崇央 （麻酔，集中治療）
成田　優子 （麻酔，産科麻酔）
田澤　和雅 （麻酔）
加藤　梓 （麻酔，産科麻酔）

佐々木　華子　（麻酔）
北岡　良樹　（麻酔）
金子　恒樹　（麻酔，産科麻酔）
原口　靖比古　（麻酔）
伊野田　絢子　（麻酔，集中治療）

専門医：杉本　真由（麻酔，ペインクリニック）
高橋　綾子（麻酔）
金子　友美　（麻酔）
黒川　右基　（麻酔、集中治療）
黒木　将貴（麻酔）
岡田　啓（麻酔）
大久保　訓秀（麻酔）
野口　翔平　（麻酔、産科麻酔）
松浦 千穂　（麻酔）
渡辺　楓　（麻酔、産科麻酔）
遠藤　奈穂（麻酔、産科麻酔）

日本麻酔科学会麻酔科認定病院番号：390

特徴：県内唯一の総合周産期母子医療センターかつ高度救急救命センターでドクターヘリが設置されている．急性期医療に特化した麻酔管理のみならず，独立診療体制の産科麻酔，ペイン，集中治療のローテーションが可能で，手術室麻酔のみならずオールラウンドな麻酔科医を目指すことができる．

TMG あさか医療センター

研修実施責任者：成島光洋

専門研修指導医：成島光洋（麻酔）
石橋恵理子（麻酔）
糟谷祐輔（麻酔）
茶谷祐一（麻酔）
平安山剛（麻酔）
長江泰孝（麻酔）

専門医：横山竜也（麻酔）

認定病院番号：1268

特徴：

＜病院概要＞
当院は埼玉県の二次医療圏の南西部に位置し，現在も人口が増加しているエリアのため，症例数も豊富です．消防・診療所・施設とも連携をとり救急患者も多く受け入れています．
＜麻酔科研修＞
2 次救急に対応し，一般症例から重症症例まで幅広く研修可能です．超音波ガイド下神経ブロックの経験が多く積めます．入院サポートセンター（周術期外来）を通して周術期をチーム医療であたります．

武蔵野赤十字病院

研修実施責任者：南浩太郎
専門研修指導医：南浩太郎（麻酔）
齋藤裕（麻酔）
田中直文(麻酔)
大塚美弥子（麻酔）
竹下依子（麻酔）
大谷良江（麻酔）
田中園美（麻酔）
犬飼慎（麻酔）
松波恵里佳(麻酔)
萩原早希（麻酔）
認定施設番号：455
特徴：地域のがん治療拠点病院、周産期センター、災害拠点病院として豊富な術式を経験できる。

社会医療法人財団石心会　埼玉石心会病院

認定病院番号　：　837
研修実施責任者：　後藤　晃一郎
専門研修指導医：　9 名　後藤　晃一郎（麻酔）
髙田　眞紀子（麻酔）
牟田　寿美　（麻酔）
濵口　裕江　（麻酔）
蓑輪　行輝　（麻酔）
長根　亜佐子（麻酔）
栗原　郁実　（麻酔）

住井　啓介（麻酔）
山本　牧子　（麻酔、心臓麻酔）

専門医　：　2名　池袋　茜　（麻酔）
玉井　智久　（麻酔）

特徴　：　地域医療支援病院として地域医療に貢献しており、
心臓血管手術症例が豊富である。

昨年度症例数　：　総手術件数：　5,121
麻酔管理数：　3,639
全身麻酔数：　3,165

国立循環器病研究センター

麻酔科病院認定番号　168　　1978年麻酔科学会認定病院

2025年麻酔科管理全症例数	2494症例
小児（６歳未満）	230
帝王切開	52
心臓血管手術	1706
胸部外科	13
脳外科	564

センター手術室は12室であり、そのうち4室はハイブリッド手術室です。ロボット手術専用室やCOVID対応陰圧手術室も設置しています。特に冬は緊急大動脈解離手術が多くなります。劇症型心筋炎や心筋症増悪に対する左室補助装置装着手術も多いです。心臓移植はおよそ月1回程度あります。麻酔科医はスタッフ8名レジデント18名で対応しています。休日を含めた毎日、麻酔科医2名が当直、オンコール1名ですべての緊急症に対応しています。

文責　前田琢磨

麻酔科専門研修指導医（7名）麻酔科学会会員番号

金澤裕子	9878
前田琢磨	14602
南　公人	13868
下川　亮	21148
月永　晶人	21010
森永　將裕	21450

三浦　真之介　　22364

柏厚生総合病院

研修プログラム統括責任者；田中 久博

専門研修指導医：田中 久博（臨床麻酔、集中治療、ペインクリニック）
大曽根 順平（臨床麻酔，救急医療）
富田 絵美（臨床麻酔、心臓麻酔）

専門医：林 雅信（臨床麻酔、心臓麻酔）
星野 裕子（臨床麻酔、産科麻酔）
小西 花世（臨床麻酔、心臓麻酔）
長谷川 優紀（臨床麻酔）

麻酔科認定病院番号 ； １４１６号

特徴：地域で中心的な役割を果たす総合病院、手術施設として、最新の設備を有し．幅広い症例に対応できる体制をとっている。２次救急施設であり、救急患者の受け入れも多い、２０２４年１１月を目処に病床数をさらに１００症程度増床し今以上に多くの症例に対応できるようにする予定である。心臓血管麻酔専門医認定施設となり、心臓血管麻酔症例も増加、心臓血管麻酔専門医の資格も当院で習得可能。またハイブリッド手術室を２０２４年度に配備して行くことも決定している。通常の麻酔に加え、区域麻酔、特に末梢神経ブロックなどは積極的に行っており症例数はかなり多い。また集中治療のローテーションも可能。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに志望の研修プログラムに応募する．

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，東京都立多摩総合医療センターホームページ，東京都医師アカデミーホームページ，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

東京都立多摩総合医療センター　麻酔科　部長　山本　博俊
東京都府中市武蔵台　2-8-29
TEL 042-323-5111
E-mail　qwehirotoshi@gmail.com
Website https://www.tmhp.jp/tama/

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

1）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
2）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
3）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
4）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

7. 専門研修方法

別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する.

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる.

専門研修２年目

１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪いASA３度の患者の周術期管理やASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる.

専門研修３年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる.また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する.

専門研修４年目

３年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる.

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する.研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される.
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う.研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる.

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，**専攻医研修実績フォーマット**，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**をもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

13. 集合研修の実施

本プログラムでは，都立病院が基幹施設となっている全領域の専門研修プログラムと合同で，集合研修を実施する．

1　災害医療研修（1 年次）

・　災害医療の基礎概念を理解する．

・　災害現場初期診療，救護所内診療，搬送等を想定して，実践的な訓練を行う．

・　災害現場での手技を修得する．

2　研究発表会（2 年次）

・臨床研修，研究成果を学会に準じてポスター展示と口演により発表する．

3　3 年次 4 年次集合研修

・3年次4年次に相応しい研修テーマを年度毎に選定して実施する．

14. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての多摩北部医療センター，多摩南部地域病院，など幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

15.専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則としま

す. プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境(設備, 労働時間, 当直回数, 勤務条件, 給与なども含む)の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します.

年次評価を行う際, 専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価(Evaluation)も行い, その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する. 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します.